



身近な金属の金、銀、銅。この中で最初に日本で産出され、大量に使われた金属は何でしょう。

正解は銅です。銅の使用は弥生時代にさかのぼります。儀式で使う祭器が銅を原料としてつくられたのです。これは純粋な銅ではなく、さまざまな混ぜた青銅という合金でした。

銅剣や銅鐸と聞くと暗い緑色を思い浮かべるでしょうが、使われていた当時は黄金色にキラキラと輝いていたんですよ。現存する青銅製の祭器はどれも発掘品なので、さびて緑に変色しているのです。

古墳の副葬品として発掘される鏡も銅製です。銅鏡には中国でつくられたものと日本でつくられたものが

卑弥呼の鏡、最古の貨幣、奈良の大仏… 元は黄金色 祭器や権力の象徴に

ありました。鏡は貴重で、鏡を持つことで周囲に権威を示すことができました。邪馬台国の女王・卑弥呼も魏(中国)の皇帝から銅鏡を1000枚もらっています。銅鏡は単に顔や姿を映す道具ではなかったのです。ところで卑弥呼の鏡は「三角縁神獸鏡」だったのではないかとはいわれていますが、この鏡について興味深い事実が判明しました。京都国立博物館が3Dプリンターで三角縁神獸鏡を正確に復元して光を当てたところ、反射して壁に映った光の中に、鏡の裏の文様がはっきりと浮かび上がったのです。

もちろん科学的に説明がつく現象ですが、当時の人々は驚いたことでしょう。こうした不思議な現象を利

用して、卑弥呼は人々をうまく統治していたのかもしれないね。

日本最古の貨幣も銅製でした。和同開珎ではありませんよ。天武天皇の時代につくられた富本銭が最古の貨幣だといわれています。

平安時代初期までに製造された貨幣の原料は、主に銅でした。和同開珎は平城京をつくる時、労働者に払うために铸造されたようです。当時、労働の対価は布や米で払われていましたが、財政難だった朝廷が貨幣をつくらせてそれに高い価値を持たせ、労働者に与えたのです。

銅は仏像の素材にもなりました。日本最古の仏像・飛鳥寺釈迦如来像も銅製です。でも、金銅仏の代表といえは奈良の大仏ですよ。正確には東大寺盧舎那仏といいますが、残念ながら奈良時代に創建された当時の部分はごく一部しか残っていません。この高さ十数メートルの大仏をつくるために500トンもの銅を使いました。大仏づくりは743年に始まり、完成式典(開眼供養会)は752年に行われました。大仏は未完成でしたが、仏教の伝来から200年目にあたりと考えられていた上、大仏の铸造を命じた聖武天皇の体調が悪く、生きていたうちの式典開催を望んだからだと思われまます。式典には天皇、皇族、貴族の他にアジア各地から約1万人の僧侶も集まり、盛大なイベントになりました。



イラスト・さじろう

かわい・あつし
文教大学付属中学・高校教諭。現役の教師として歴史を教えるかたわら、多くの日本の歴史の本を書いている。「世界一受けたい授業」などテレビにも出演し、おもしろい歴史のエピソードを語る。